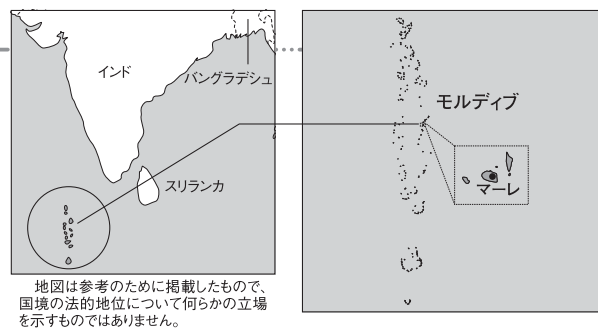


ユニセフ 子ども物語

地球に生きる子どもの暮らし

Republic of Maldives

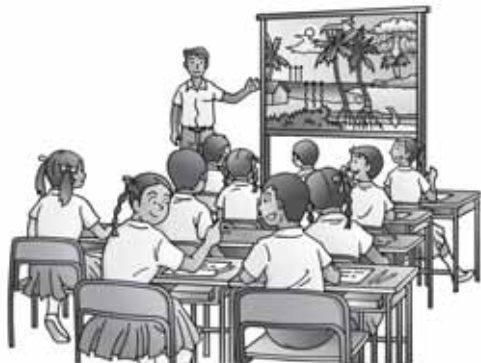
モルディブ共和国



地球環境を守るために、今こそ行動を！

モルディブで生まれ育った18歳の高校生アグザムくん。首都マーレで家族といっしょに暮らしています。約1,200のさんご礁の島々からなるモルディブは、標高の最も高いところで3メートルという国です。アグザムくんがとても心配していることがあります。近年、モルディブでは地球温暖化の影響で海面上昇による海岸線の後退が深刻な問題となっているのです。

アグザムくんが通っていた小学校は、ユニセフの支援でモルディブ政府教育省が推進する環境教育



の授業がさかんでした。それ以来、アグザムくんは、課外活動の学校環境クラブで熱心に活動するなど、環境問題には人一倍強い関心をもってきました。

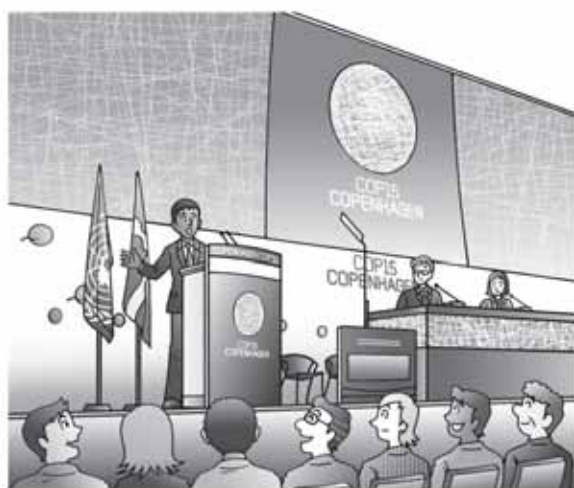
「環境教育の授業では、地球温暖化の原因などの知識だけでなく、家族や地域として具体的にどのように取り組んだらよいかも学んだんだ。」とアグザムくんは、真剣に語ります。クラブではマーレにおける護岸侵食の問題や、ごみ



処理の問題に活発に取り組んできました。今は、モルディブユース環境ネットワークのメンバーとして、モルディブが直面する環境問題を1人でも多くの人に知ってもらうため、ブログなどを通して啓蒙活動を行っています。

アグザムくんは、2009年12月にデンマークのコペンハーゲンで開催された「子どもの気候変動フォーラム」、「国連第15回気候変動枠組条約会議(COP15)」の2つの会議に参加し、世界の子どもを代表して発言するというとても貴重な機会に恵まれました。

COP15で、アグザムくんは世界の指導者に向けてこう発言しました。「2050年、みなさんのお子さんは何歳になっているのでしょうか？この瀕死状態の地球で、子どもたちは生き延びることができるのでしょうか？すでに遅れています、遅すぎるということではありません。今こそ、行動を起こす時です。」



世界の平均気温があと2~3℃上昇すると、国土が海中に沈んでしまうモルディブ。アグザムくんの言葉はとても重く聞こえたにちがいません。

<文・構成：(財)日本ユニセフ協会>

美しいエメラルドグリーンインド洋に散らばるさんご礁でできた島々に30.5万人が暮らすモルディブ共和国。首都マーレは、日本の皇居のわずか約1.5倍の広さに人口の約3割の10万人が暮らす過密都市です。残りの7割の人口は、約200の島に分散しています。モルディブは、世界有数のリゾート地として発展しており、過去25年間の経済成長で、人口1人あたりの実質国民所得は、南アジア地域で最も高い水準に達しました。



©日本ユニセフ協会
空から見た環礁

地球環境を守るために、今すぐ私たちにできること

モルディブの子どもたちの現状と課題

近年の経済成長の恩恵は、社会政策を重視する政府によって教育、保健分野に確実に再配分されており、ミレニアム開発目標はほぼ達成できる見通しです。しかし、国土の狭さゆえに野菜等の食料供給が困難なため、多くの子どもたちにとって慢性的な栄養不良の問題と、そのことに起因した発育障害の問題が指摘されています。また、モルディブは、世界で最も海拔が低い国として、近年の地球温暖化による影響が指摘されています。海水温上昇による珊瑚礁の白化現象など、主産業である観光に打撃を与えかねない環境問題が深刻になってきています。



©日本ユニセフ協会
浜辺で遊ぶ子どもたち

また、モルディブは、世界で最も海拔が低い国として、近年の地球温暖化による影響が指摘されています。海水温上昇による珊瑚礁の白化現象など、主産業である観光に打撃を与えかねない環境問題が深刻になってきています。

に対する一方通行の理科や社会の授業ではなく、マルチメディア教材をもとに子どもたちが自発的に取り組んでいける、体験学習、観察、実験を中心とした教科横断型の環境学習を実践してきました。具体的には、小型の風力発電機の模型を自分で組み立てて、モルディブで今後必要とされる、二酸化炭素を排出しない再利用可能燃料によるエネルギー供給の可能性について学習したり、弱電流を流すことによって白化した珊瑚の再生に取り組んでいるNGOへ研修学習に出かけたりしています。現在は、こうした環境教育のプログラムは小学校を中心として行われていますが、今後は、このようなNGOとの協力によって、環境教育のプログラムが中学校へ拡大していくことが期待されています。



©日本ユニセフ協会
海岸に捨てられたゴミ



©日本ユニセフ協会
首都マーレのゴミ運搬船

モルディブの状況

(より詳しい統計は「世界子供白書 特別版2010」をご覧ください)

項目	モルディブ	日本
18歳未満の子どもの数(2008年)	112,000	20,759,000
5歳未満児死亡率(2008年、出生1,000人あたり)	28	4
1人あたりの国民総所得(2008年、米ドル)	3,630	38,210
初等教育純就学/出席率(2003-2008、%)	97	100
低出生体重児出生率(2003-2008、%)	22	8

出典：「世界子供白書 特別版2010」

環境教育－次世代のための責任

モルディブでは、ほぼすべての子どもたちが学校に通えるようになってきており、現在、ユニセフによる支援は教育の質の問題に移ってきています。中でも、モルディブが直面している環境問題をどのように子どもたちに伝え、対策に取り組んでいくのかということを経験の教科の枠組みに留まることなく、教科をこえて教えていく必要性が高まってきました。そこでユニセフは、これまでの教科書のみを使った、教師から児童生徒



©日本ユニセフ協会
海面上昇によりえぐられる海岸線

と、子どもたちが積極的に自ら行動を起こせるようにと、課外活動としての環境クラブ活動も支援しています。物語に登場するアグザムくんは、まさに、この環境クラブの活動を通して、モルディブの環境問題、さらには、地球規模で起こっている温暖化に関心を深めた結果、自ら、他の子どもたちや大人たちにも環境問題の重要性を訴えることに責任感を感じ、積極的に行動しているのです。

環境クラブ－参加する権利、行動する義務

また、ユニセフは、こうしたカリキュラムの一環としての環境教育に加えて、子どもたちが積極的に自ら行動を起こせるようにと、課外活動としての環境クラブ活動も支援しています。物語に登場するアグザムくんは、まさに、この環境クラブの活動を通して、モルディブの環境問題、さらには、地球規模で起こっている温暖化に関心を深めた結果、自ら、他の子どもたちや大人たちにも環境問題の重要性を訴えることに責任感を感じ、積極的に行動しているのです。



©日本ユニセフ協会
モルディブ北西部にあるラ・ウングファール小学校の子どもたち



©日本ユニセフ協会
ラ・ウングファール小学校の環境クラブのメンバー